

瀬崎林業(大阪)は、瀬崎民治社長(右)の各種事業が好調に推移している。国産材輸出は前年を上回るペース。中国産LVLも月間販売量が増加した。チリ産材は西日本での引き合いが強まっている。

国産材輸出が前年超へペース

チリ産材は西日本で販売伸ばす

瀬崎林業

国産材輸出は8月時点中国向けを主力として約8万4000立方メートルに達し、前年を上回る実績だ。2018年通年で12万立方メートルを超えてくると見られる。昨年実績は10万立方メートルを超えていた。

中国では各種種類の港頭在庫が減少しており、杉丸太への引き合いが手堅い。丸太価格は夏場に値上がりしたが、直近では小値で値上げしている。

同社は九州地方で安定した供給源を獲得しており、パイオマス向けなどの場合に大きく

太供給にも力を入れ、国内外への丸太流通強化を視野に入れる。梱包用の中国産ホブ

初は月間1000立方メートルの販売だったが、現在は同1500立方メートルに増えている。

取引先に対し、チリ産ラミアタ松とともに資材の選択肢として提示できることが需要獲得につながっている。

主力事業のチリ産材製材事業は好調だ。昨夏に熱処理施設を増設し、処理能力を高めた関東での販売は順調。さらに、西日本市場でもニューシランD産材の代替需要を獲得している。

西日本向けの販売には今後も力を入れてい

く左右されず、丸太をLVL及び合板の取扱いできる体制を整えている。扱量も増加傾向で、コンスタントな販売が続いている。事業開始三

大阪では年内に熱処理施設を増設する計画で、供給力を強化する。